

一兵庫県透析医会前会長 原先生を偲んで一

兵庫県透析医会副会長 坂井 瑠実

さる平成7年4月7日夜、前兵庫県透析医会会長原信二先生がお亡くなりになりました。静かに、突然……。5年前には肝臓癌、2年前には胃癌で手術をなさいましたが、これぐらいでは負けないと、胃癌の術後1ヵ月半でヨットレースに出場。念願の優勝を果たされ、ただただ驚嘆したのを昨日のこのように思い出します。南の美しい海が唯一の活力とおっしゃりながら、仕事を、透析を、透析医会をこよなく愛され、ご自分の施設のみならず、全会員のために最後まで全力投球なされた先生。この阪神大震災でもいち早く透析再開を果たされ、文字どおり不眠不休で被災地区の透析施設のために奔走され、どうしたら少しでも効率よく透析医療が出来るか、原方式——立ち上げる施設を決めて集中的に水の手配をし、時間制で施設のみを使わせてもらう即ち、患者は施設こそ違え、主治医をはじめ、いつものスタッフに透析をしてもらうことが可能——を考え出され、実行なさいました。とてもご病気だと思えないパワフルな行動力で、会員のため、透析医会のためと、可能な限り被災施設を回られ、IVHをしながら会議に出席。多分どっとお疲れが出て、死期を早められた。先生は阪神大震災の大きな大きな犠牲者、そう思うわざるを得ません。

“あくせく仕事ばかりをしてはあかん、遊べるときに遊ばな！”これが先生の口癖でした。万難を排して遊べる時に遊び、美味しいものを食べる。病気したら何もできなくなるで——とも。

もう数年前になるでしょうか、海のお好きな先生が、幹事会のメンバーを石垣島へ誘ってくださり、飛行機の予約までして下さいましたの

に、忙しいからとやっぱり実現しませんでした。またある時、忘年会を先生のヨットでしようということになり、これは残念ながらお天気が悪くて流れてしまいました。お好きなヨットで、海の話を一杯聞かせていただければよかったと、後悔しています。

お亡くなりになる10日位前、幹事数名でお見舞いに伺ったときにも、いろんな話がでて、つい去りがたく、長居をしてしまいました。お疲れだったと思います。

原信二先生は昭和58年11月17日設立された兵庫県透析医会の初代会長として、一昨年までの10年間、文字どおり兵庫県透析医会の顔としてご活躍なさいました。藤田嘉一会長のもと神戸で行われた第36回日本透析療法学会を全面的にバックアップ。ワールド記念ホールでの懇親会は透析医会主催で、兵庫県で透析を行なっている人間すべてが元気になるすばらしいイベントとなりました。臨床工学技士指定講習会や、兵庫腎疾患対策協会の設立支援、透析患者の団体である腎友会との密な連携等等、いつも先生の人脈の多さに感心して来ました。筋の通らないことがお嫌いで、何でもズバリおっしゃる。それでいて皆に慕われるのは、公平無私の本当の優しさをお持ちだったからに違いありません。

ともすれば透析医側にたつてものを考えてしまいがちな医会活動の中、中身で勝負し、患者に選ばれる施設に仕上げる努力をするべきだというのが先生の持論で、医療従事者は、お互いに情報を提供しあい、仲よく手を組んでやっていくのが一番大切と、常に和を強調された先生の魅力で、今兵庫県透析医会は、会員数 152、

県医師会の分科会となって名実ともに大きく成長してきました。これこそ原先生の大きなご功績であります。

64歳のあまりにも早く、惜しい原信二先生の死、残念でなりません。今後は、何とか先生のご意志を継いで会員一同仲良く透析医会を盛り立てていきたいと思いをします。

謹んで心よりご冥福をお祈り致します。